

特集：キャリア支援

楽しい就職活動推奨記

服部 桂祐（筑波大学 生命環境科学研究科博士前期課程2年）

まもなく始まる就職活動に皆さんはどのような思いを抱いていますか？自信と期待に満ちあふれている人、不安や焦りに駆られている人、人それぞれだと思います。かく言う私は就職活動が近づくにつれ鬱鬱とした日々を過ごした記憶があります。しかしいざ本格的に始めてみると思いのほか楽しく、毎日東京に出て行くこともさほど苦にはなりませんでした。

このような“就職活動を楽しいと思える姿勢”、これこそがまさに就職活動を乗り切る核だと私は思います。グループディスカッションでは笑顔になり、面接では自然と生き生きした面持ちになる、楽しもうという気持ちで挑めば必ずありのままの自分をアピールすることができ、それがきっと良い結果を生み出します。

そこで就職活動を楽しく進めるために、私の実体験を元にしていくつかアドバイスをさせていただきます。少しでも皆さんの参考になれば幸いです。

【視野を広げて、自分の可能性を楽しもう！】

～いろんな業界に興味を持つ～

就職活動を意識し始めたM1の夏頃、私は食品メーカーの研究職を志望していました。それは食が大好きという前提の下、今まで学んできた学問を生かされるフィールドがあることや商品という目に見えるものを通して社会に貢献してみたいという思いがあったからです。そして多くの先輩方の就職先でもあり、友人たちも志していることから、身近に感じられたことも影響しました。

しかし就職活動が始まりだした秋頃、このような考えは瞬間に変わっていきました。就職支援ガイダンスや合同企業説明会などで様々な業界に触れ、今まで興味がなかった業界や仕事の魅力が大きく膨れ上がっていったのです。「モノづくりはメーカーでなくてもできる！（鉄道やゼネコンはランドマークなどを作っている。）」「ITは将来、あらゆる人の生活基盤に関わっていける！」「マーケティングやブランドマネージメントは様々な業種の人と関わり、社会を知ることが出来る。また華やか（なイメージ）！」今まではモノづくり＝メーカー、食こそあらゆる人の笑顔に繋がると考えていたのですが、他の業界でもそれらが実現できるということを肌で感じました。また研究職以外の職種にも魅了されていきました。そして知れば知るほど、なりたい自分、成し遂げたい野望が増えていき、実際の選考では当初の志望業界である食品だけではなく、化粧品、製薬、そしてIT、コンサル、インフラなどの業界にも挑戦していきました。

私は度重なる選考を経験していくうちに、結局は食品業界（特に最終加工食品会社ではなく原料会社）に収束していきました。しかし様々な業界を見た経験は時間の無駄ではなく、志望業界を絞る過程で非常に生きてきたと思っています。それは自分のやりたいことを一方向だけでなく多面的に見ることができたからで

す。何故食品業界に行きたいのか、という問いに対して、「食が好き」「笑顔が作れる」「食への需要は無くならない、安定している」という単純な考えだけでは、食品業界でなければならない理由を追求することができません。そこで私は他業界というモノサシを使い、比べ、業界ごとの優劣を考えました。そして食品業界における“食の多様化”というやり甲斐に惹かれる一方で、国内市場の伸び白の無さを体感し、海外にも強くあらゆる食に関係することのできる食品原料会社を強く志望するようになっていきました。

私は実体験から、皆さんに視野を広くすること、そして様々な業界にチャレンジすることを強くお勧めします。私はこの経験を通して、食品業界の魅力を再認識しましたが、同じ専攻の同期にはブライダル、出版、コンサルなど、様々な道へ進む人たちがいます。今まで習ってきた生物学という軸を一端取り除き、広く、広くものを見てもいいかもしれません。そして自分の前にいくつもの異なる道が伸びていて、その中でどのキャリアを積もうか、高揚としながら選択する就職活動であればきつとしっかりとした軸を持つと同時に、楽しみながら遂行できると思います。

（広くものを見るために。例えば新聞で社会全体の流れを学ぶ。これは単なる面接時事問題対策だけではなく、自分のビジョンと照らし合わせてキャリアを想像するきっかけになります。）

【等身大の自分で“自分らしさ”を大切に楽しもう！】

最近の就職活動は就活塾や就活本、エントリーシートの添削サイトなど乱立しており、文字通り“マニュアル化”が進行しています。これらツールはマナーや心得を得ることができる点などから、使い方によってはとても便利だと思います。しかし私は決して頼りませんでした。そしてあくまで自己流を貫き通し、活動をしてきました。それには2つの理由があります。1つ目は本来の自分を見失うこと、これを恐れたからです。本や座学では確かに自分のうまい見せ方を学べます。しかしこのような知識を生かそうと相手の評価ばかり意識しすぎると、自分の雰囲気失われてしまいます。これでは背伸びした自分を売ることになってしまい、企業とのミスマッチも生じてしまいます。そこで私は自分の雰囲気を大切にしました。そして2つ目はマニュアルに従ってしまったらつまらないからです。ありのままの自分で臨んだ方が絶対楽しいし、相手も評価してくれます。某有名インフラ企業の人事の方も推奨していました。「最近の就活生は、皆一緒。うまい見せ方を学んで、言いたいことを暗記して、それをオウムのように復唱するだけ。正直、この人を採用したい！と思える学生が少ない。でも逆に個性を貫き通している人は採用したいと思う。」と。つまり楽しいと同時に選考がうまくいく可能性も高くなると思います。

もちろん鵜呑みにせず、情報の取舍選択ができる人はこれらのツールをうまく利用して満足のいく就職活動ができると思います。ですので、使いたい人は使っちゃいましょう。しかしここで1つ言いたいことは、どれだけ参考にしても、これだけは譲れないと思う“自分らしさ”を大切にしてほしいということです。これを見失ってしまうとちぐはぐな印象を与えてしまい、選考がうまく進まなくなります。私の場合自分らしさとしてどんな時も“笑顔”を大切にしました。どんなに圧迫面接であろうと、相手がクスツとするような面白い言い回しと楽しそうに話すこと、そしてそういった雰囲気を通して、笑顔の溢れる面接ができるように心掛けました。知的さが無いというウィークポイントを無理して補うのではなく、明るく楽しそうなキャラクターを貫き通しました。そして内々定を頂いた企業の最終面接では最後に、「キミ面白いね、なんでそんなに笑顔で喋れるの？」と仰って頂くこともできました。このようにして私は自分らしさを大切に、内々定を頂きました。ありのままの自分を受け入れてくれた内々定先だからこそ、私はマッチングしている（縁のある）会社だと感じています。

大学受験はある種のマニュアルが存在し、「これをやれば受かる！」というようなものはありました。しかしそれは“高い点数を取る”＝“合格”という単純なシステムだからこそ役立つものです。就職活動は考え方や個性、また今までの経歴など様々な選考基準があり、それらをひっくるめてマッチングした時に、初めて内定が出ます。それは決して数値化できない複雑な評価基準です。なので、あまり形式化したマニュアルに頼らず、ありのまま、自分らしさを大切にすることでこそ、満足のいく就職活動が出来る、そして楽しく挑めるのではないのでしょうか。

【就職活動を明るく楽しむ！】

～そのために自分に自信を持とう～

私は就職活動中、必ず“ある物”を引っ提げて選考の地を駆け巡りました。それは、趣味としても楽しんでいるカメラです。折角半年近くも東京やいろいろな地域を巡るのだから、ただ選考を受けて帰ってくるだけではもったいないと考えていました。そして行く先々で観光スポットや公園を巡り、写真を撮り、またお腹がすいたら美味しそうなラーメン屋を探す、このようにして就職活動を楽しもうという心持ちを作り上げました。

しかしやはり就職活動、誰にでも辛い時が訪れます。選考が上手くいかない時や将来に不安を感じる時、私は第一志望の企業の最終面接で落とされた時に悔しさのあまり何も手に付かない日々を過ごしました。しかしふと考えると、このような辛い経験、これこそ就職活動の醍醐味ではないのでしょうか。人生を振り返っても、これほど悔しいことが濃縮された時はありません。泣いて笑ってまた泣いてと繰り返し、仲間と励まし合い、高め合う…。正に青春です。要はポジティブに考えた者の勝ちだと思います。

就職活動に辛い経験は付き物です。誰だってプレッシャーを感じます。ならば人よりも楽しんで、プレッシャーを弾き飛ばしましょう。今後の人生でもポジティブさは大切です。会社だって明るい人材が欲しいと思います。ですので、自分に自信を持ち、明るく挑んでいきましょう。

写真1) 某ビール会社の選考にて撮影



私の就職活動は70社近くの企業にアプローチをし、4社の最終選考に進むことができました。そしてその中でも一番縁があった原料会社の内々定を受託し終活に至りました。第一志望である食品原料会社に行くことができたことで、結果としては大変満足しています。これは何より楽しもうという気持ちを貫き通したお陰だと思っています。

また結果以外にも、自己成長に繋がる経験ができたことにも大変満足しています。自己分析を繰り返すことで、本当の自分を知り、なりたい自分をより具体的に考えることができました。また企業研究をすることで、社会を知り、自分のキャリアビジョンを明確にすることができました。このように真剣に将来の自分を考えることができたことこそ、就職活動を通しての一番の財産なのかと思います。

そして最後に学類生の方々に1つお伝えしたいことがあります。それは学類生のうちに、真剣にキャリアビジョンを考えることです。私の場合は「博士前期課程に進学して、企業の研究者になりたい。」という気持ちだけで進学の道を選んでしまいました。しかしいざ就職活動を経験し社会を見ると、魅力のある道は1つだけじゃないということを知りました。そして学類生の時に就職活動をしていればよかったという思いを抱くこともありました。学類生での就職活動は、早くから自己を分析し、社会を学ぶことができ、それらを照らし合わせて早くからキャリアを想像することができます。また学類卒の方が有利な選考はいっぱいあります。もし浅い考えで進学を選ぼうとしている方がいるのであれば、就職活動を経験することも大切な1つの手です、考えてみてください、きっとよい経験になります。

【付録】

参考までに、役立ったツールや情報、やっておけばよかったと思うことを書き連ねていきます。

日経テレコン21

日経新聞に記載された記事を検索できます。興味のある企業名で検索をかければ、過去のニュースを手軽に見られる夢のようなツールです。筑波大学の端末から、tulipsを介してご覧頂けます。短時間で企業研究ができ、よく人事の方から勉強しているね、と褒められました。

テストセンター対策

テストセンターは忙しくなる前に良い点数を取っておきましょう。そのために、是非選考が早い外資系企業で受けておくことをお勧めします。足キリが高いと噂される企業を通過していれば、他の企業に使いまわしてもほとんど落ちることはないです。

リクレーター

歴史がある大手企業ではリクレーターがよく存在します。これは大学名などで付くことがあります、時には説明会の出席率で付く場合もあります。リクレーターに関する情報は様々な人と話すことで知れるので、その辺を意識しながら就活仲間と情報交換するとよいでしょう。

合同企業説明会

知っている業界や企業のブースに行っても、それほど収穫はありません。たかだか30分程で説明できる内容は企業HPよりも薄っぺらいのですから。ただ全く知らない業界や企業の話聞きに行くのなら、とても有意義なイベントになります。

ベンチャー企業

私も数社ほどベンチャー企業の選考を受けました。その場であった社員や学生は、大手、中小企業と比べても働く意欲が高く、食欲な人が多かったと思います。ベンチャーを受けることで“働くこと”について真剣に考えることができました。

内定

私は内々定を頂いた後、1週間程考える時間を頂きました。(こういった猶予は企業によってまちまちです。そのまま就職活動を続けてもよいという企業さえあります。)そして結局は内定承諾書を提出したのですが、正直葛藤しました。それは他の企業の選考も順調で複数の内定が取れると考えていたからです。時には内定承諾をしておいて、就職活動を続けようという悪い考えさえ浮かんできました。しかし私はモラルと自分の志望動機をしっかり考え、きっぱりと活動を終わらせました。

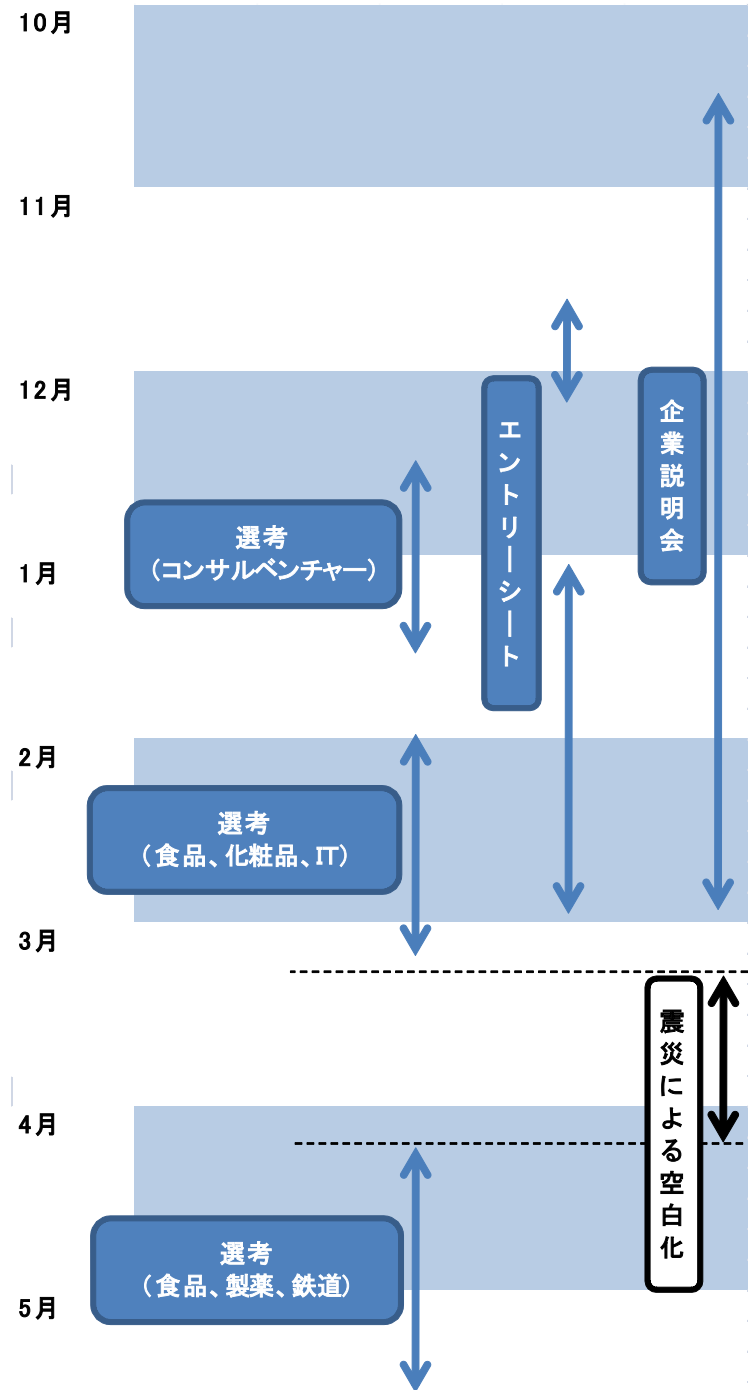
※内々定を受理するかどうかという決断は就活生のほとんどが悩む問題だと思います。それで私の一例を挙げさせて頂きました。

通過率

エントリーシート	48%
学力テスト	79%
1次選考	52%
2次選考	44%
最終選考	50%

※1次選考は主にグループディスカッションかグループ面接(学生2~10人)、2次選考は個人面接(人事2~3人)、最終選考は役員面接、(役員4~5人)がほとんどでした。尚企業によって選考の数、内容、雰囲気は違いますので、参考までに留めておいて下さい。

私の活動スケジュール



※食品、化粧品は主に技術職
製薬、コンサル、IT、鉄道は事務職で受けています。